平成 23 年度　地域懇談会

平成 24 年 2 月 25 日(土)
午後 2 時～3 時 30 分
健康文化センター1 階 多目的室

1．「参加と協働の約束に基づく制度施行規則」第 27 条による課題
ごみから資源再生へ　　～ごみ問題の現状と展望を考える～

2．対象地域
中地域(余野・垣田・さつきケ丘)

3．懇談会パネリスト(8 名)
余野区長　伊藤幸治　　垣田区長　武田静雄一　　さつきケ丘区長　古川健治
議会議員　伊藤　浩　　株式会社ユニー　萩野下満
町 NPO 登録団体サラダボールカンパニー　前田みどり
子ども会連絡協議会　犬塚とし枝　　余野地区　吉田美穂

4．懇談会出席者(3 名)
大口町長　森　進　　地域協働部長　近藤定昭　　環境課長　杉本勝広

5．司会進行
地域振興課長　平岡寿弘

6．会議記録
地域振興課長補佐　佐藤幹広

地域振興課長（平岡寿弘）　ただ今から地域懇談会を開催いたします。本日の司会進行を務めます地域振興課長の平岡です。よろしくお願いします。

この地域懇談会は、まちづくり基本条例の規定にもとづき、町長が議会、自治組織、その他さまざまなまちづくりの担い手とともに、大口町のまちづくりについて意見交換をする場として開催するものです。本年度は「ごみ問題の現状と展望を考える」をテーマに、各種の取り組みや今後の展望に対してご意見を聞く機会としてまいりたいと考えています。本日は町長を座長に、座談会方式で進めさせていただきますのでよろしくお願いします。

それではパネリストの皆さんを紹介させていただきます。

＜パネリストを紹介＞

地域振興課長（平岡寿弘）　環境課長の杉本より「可燃ごみ減量に向けた取り組み」について説明させていただきます。

＜環境課長、スライド「可燃ごみ減量に向けた取り組み」に基づき説明＞

地域振興課長（平岡寿弘）　これより座長を中心に意見交換を行っていただきます。パネリストの皆さん、よろしくお願いします。

町長（森進）　環境課長からごみ減量 20%に向けた大口町の取り組みを説明させていただきました。しかし、平成 17 年 11 月に定めた目標、16 年ベースで、3 年間で 20%の削減、この目標には達していません。この間、20%の目標の達成のためにいろいろ大口町独自の取り組みを重ねてきましたが、残念ながら現在も 20%の目標に達していない状況です。本日の懇談会はパネリストの皆さんからいろいろ町に要望をいただくというものではなくて、皆さんの生活の中で大いにかかわりのあるごみの問題について、体験談あるいは私どもが実施しているいろんな取り組みについて、アイデア・助言をしていただければ、私どももそれを参考に新しい取り組みで 20%の減量目標を達成したいと思っていますので、皆様には私どもが気付かない視点で、助言・問題点を話していただければと思っています。

皆様のお手元に冊子が配布されています。これはアピタさんから提供いただいたもので、アピタさんの取り組みについて、大口店長の萩野下さんからお話を聞きたいと思います。　よろしくお願いします。

アピタ（萩野下満）　私どもユニー株式会社は環境理念というものがあります。その中に、環境方針、この環境方針の中にごみについての方針があります。この環境レポートの中にもありますので、かいつまんで説明します。「環境目的、環境目標を設定し、限りある資源を大切にするために、省資源・省エネルギーに取り組み、廃棄物の排出抑制、リサイクルを推進します」ということで、ごみに関してはリサイクルということで、私どもは 3 つの R を実践いたしています。

1 番目はリデュース。これはコピー用紙などの使用削減です。2 番目にリユース。マイバックキャンペーン、ノーレジ袋などの活動です。3 番目にリサイクル。私どもは店舗内にリサイクルボックスを設け、アルミ缶、トレー、牛乳パック、ビン、ペットボトルの回収をしています。こちらはお客様がご家庭でご使用になって、その後、分別されて当店に持ってきていただいた資源をリサイクルするという形でご協力しています。

2003 年より順次、店舗に廃棄物の計量器を設置しました。すべての廃棄物を分別・計量することで、廃棄するごみの原因を追求し、発生を抑制して、2010 年度の目標は 2009 年度比で 3%の

削減という目標を立てて、この目標値は達しています。

私どもが皆様にご協力できることは、皆様のところにいっているトレー、ペットボトルを回収させていただいて、限りある資源、日本は資源が少ないということもありますので、未来へのために少しでもご協力させていただければということで取り組んでいます。

この環境レポートの中に、それ以外の私どもの取り組みも載っています。地域貢献・社会貢献でやらせていただいています。

町長（森進）　続いて、サラダボールカンパニーの前田さんから、外国人の方への取り組みについてご紹介をお願いします。

サラダボールカンパニー（前田みどり）　サラダボールカンパニーは、愛知万博の前年 2004 年にできた NPO 団体で、在住外国籍の方への生活サポートや、外国のことを知る講座というものを催している団体です。実際に、不燃物・資源ごみの分別回収の勉強会を外国籍の方に向けて、リサイクルセンターで行いました。その中で、「いいまちつくろう意見交換会」ということで、どんなことをできたらみんなが住みよいまちづくりになるのかということもやってきました。

もう一つは、町の資金を利用して、衛生カレンダー(ごみの分別収集)を 3 か国語に翻訳したものを作成しました。それではスライドで説明します。

＜前田氏、スライドで説明＞

町長（森進）　大口町の中にも外国人の方がみえ、文化の違う中で生活しています。ごみの分別については、大口町のルールを理解して、ごみの分別、資源ごみの回収にご協力いただきたい。そのために、サラダボールカンパニーさん、垣田の区長さんには大変寄与していただいており、感謝しています。

環境課長から可燃ごみの中身、どういうものが中に入っているか説明していただきたいと思います。

環境課長（杉本勝広）　可燃ごみに出されている組成を大口町が独自で調査した結果、家庭から出されているごみは、リサイクル可能なごみ（プラスチック、ビニール・紙類）が 41%、厨芥類が 32%、純然たる可燃ごみが 27%です。ちなみに、事業系は可燃ごみが 44%、リサイクルごみが 56%です。

町長（森進）　今それぞれ中身について説明していただいたが、特に分別が可能だと思うものはありますか。

環境課長（杉本勝広）リサイクル可能であろうごみ 41%の中には、プラスチックの容器包装類やラップ類、さらには紙類などで、資源ごみに分別できるものが含まれています。

町長（森進）　まだまだ分別できるものが可燃ごみに入って回収されている現状があります。今後も皆さんにより周知をさせていただいて、この分別にご協力をいただくことになりますので、本日ご出席の皆様にも、日常生活の中で、すべて袋に入れて出すというのではなくて、分別について極力ご協力していただきたいと思います。

それと、まだまだ分別という具体的な仕組みまでには至っていませんが、分別可能ではないかと思うものが紙おむつです。環境課の方で、先進地の視察、メーカーからの情報収集をしているが、きちんとした仕組みまでは至っていません。引き続き研究・検討を重ねる中で、やがてはご協力いただいて収集の軌道に乗せられたらと思っています。

何か環境課長から報告があればお願いしたい。

環境課長（杉本勝広）　紙おむつについては、かなりの量に上っています。尿を含んでいるので重量ウェートも占めています。

実施については、まだまだ調査研究の段階です。

町長（森進）　ごみの分別や資源化については、リサイクルセンターの設置、ポイント制度の導入などをしているが、まだまだ資源ごみの分別を充実させなければならないと思っています。

パネリストの皆さんに可燃ごみ減量のためのアイデア・ヒントをお聞きしたいと思います。キーワードにして、お手元のボードで示してください。

＜パネリスト、ボードを提示＞

町長（森進）　順次、ボードに記載した内容についてコメントをお願いします。

議員（伊藤浩）　私は町民一人一人の美化意識の高揚がベースにあって、可燃ごみの定義の周知と分別収集を徹底することだと思います。可燃ごみと資源ごみの分別を徹底できれば、この問題は解決します。ただ、根気よくやらないと実現不可能と思っています。それを徹底するには、ビラで啓もうすること。ビラも、判断が難しいものは Q&A の質問形式のものを作成して配付するといい。家内が足を捻挫して 1 月半何もできなかったので、私が代わりに分別収集しました。そのときに思ったことは、まちのカレンダーはごみ分別のマニュアルですが、これを見てもよく分からなかった。それは、言葉から受けるイメージが違うからです。判断に迷うものは、写真や絵で表すことが必要です。

今、課長が言われたように、雑がみや容器包装プラスチックが多く入っています。容器包装プラスチックはきれいに水で洗って出す。それをしっかりやればかなり減る。

ある市では、1 回に出すごみの量を何 g 減量しましょうと目標を数値化しているところもある。標語を町民から募集して看板にしてもいいと思いました。

さつきケ丘区長（古川健治）　私も区長をやってからですので、可燃ごみについてあまり知識がありませんが、今回のデータを見ると 20%に対して 12%相当ですので、これの減量作戦といったら、住民の皆さんの意識と町関係者の熱意、ごみに対する継続ある取り組みが合致するとうまくいくと思います。具体的に何かというとエコキューブ。リサイクルできるのは紙類限定ですが、こういうのを各行政区に最低 1 台設けること。それと、生ごみと選定枝・草を、今の可燃ごみの収集車で集めることはできませんが、生ごみと可燃ごみを別々の袋にして収集車で集めるなら、費用対効果は別にして減量だけを考えると、ある程度効果があると思います。

町長（森進）　さつきケ丘は資源ごみの常時回収に取り組んでいる地域です。常時回収している地域は少ない中で、いち早く地域で実施しているところです。

続いて、垣田の武田区長さん。

垣田区長（武田静雄）　先の二人が言ったことと同じことですが、簡単に申し上げると、今古川さんが言ったように、分別する袋をさらに分ける。例えば、生ごみは赤色、紙類は黄色とか青色に。今は大口町指定のごみ袋に入れて可燃ごみとして出していますが、内容別にしたらどうかと思います。そんなにお金はかからないと思います。色別にすることで、魚の骨とか野菜くずは紙と一緒に混ぜないということから始めた方が、早く行き着くんじゃないかと思います。最終的には減量しよう、分別しようと言っているので、袋を変えてやる、さらに袋を細分化することはい

かがでしょうか。

町長（森進）　リサイクルセンターや各行政区で、不燃物・資源ごみの回収をしていますが、私が耳にしたのは、分別の種類が増えると、普通の家庭では期間が長いとそれを置いておく場所がないというようなことを聞きます。袋を別のものにして、別途収集ルートを築くということも検討に値するのかと思います。大口町では現在、それぞれ施設の方へ持ち込んでいただくという対応をしているのが現状です。

余野区長の伊藤さん、お願いします。

余野区長（伊藤）　アイデアとかヒントではありませんが、現在の江南丹羽環境管理組合がパンク状況だということを、かなりの町民の方は知らない。行政の方でもっとＰＲしていかないといけない。区の役員だけでもいいので、時々施設を見学させる。一人一人の危機感のなさ、意識のなさ、一人ぐらいいいだろうという気持ちを変化させないといけない。現在置かれている状況を皆に見せるアピールをお願いしたい。状況を知らない人が多い気がします。

私は若いときに焼却ごみを運ぶ仕事をしていたことがあるが、恐ろしいところです。こんなところで、こういうことをやっているんだというものを見せると、意識が変わってくると思います。

町長（森進）　江南丹羽環境管理組合の話ですが、これは大口町、扶桑町、江南市のごみを焼却処理する施設が大口町の河北という地域にあり、昭和47年ぐらいに建設して、一部事務組合が運営していますが、40年経過するわけです。そういうところから、現有施設が大変危機的な状況に来ていることは間違いない話です。

この後、広域での取り組みについて環境課長から報告させていただきますので、よろしくお願いします。

それでは、吉田さん、お願います。

余野地区（吉田美穂）　家庭から出る可燃ごみの中には、水分を含んだ生ごみがずいぶん入っているんだろうという予想のもとに来ましたが、32%が生ごみということを聞いて、予想以上に多いことに驚いています。

家では庭とか畑があるので生ごみは直接埋めています。20年ぐらい前に、コンポストに補助金が出るとことを広報で知ったので早速やったが、夏はウジ虫がわいたり、冬は発酵がうまくいかなかったので、何年かはがんばったがやめてしまった。その後、生ごみの処理機にも補助金が出るというのを聞いてやってみたが、3 年ぐらいで壊れてしまって、修理せずに今は家の片隅に置いてある。

2 年ぐらい前、テレビで段ボールコンポストが紹介されていたので試してみたが、やはり夏は虫がわくのと、外には置けないんですね、雨とかが当たるので。家の中だとちょっと臭います。冬は温度が低いのでやはり発酵がうまくいかない。ピートモスとパーク堆肥を使うんですが、ピートモスが高いので、ずっと持続するのは無理ということで、これも 1 年ぐらいやったがやめてしまった。

最終的に、三角コーナーを庭へ持って行って、埋める。たぶん皆さんもそういう形でやっていらっしゃると思います。

堆肥になったところで、集合住宅とか庭で野菜を作っていない人は、堆肥の利用のしようがないし、堆肥になったものを結局は可燃ごみに出す結果になります。それぞれの家庭に合った方法

しか生ごみを処理することはできないと思いますし、絶対に生ごみを可燃ごみに出すなというのは無理だと思っています。

主婦がごみ処理の要を握っています。主婦が得意なのは口コミです。先ほど PR という言葉が出ていましたが、口コミも大事で、何とかうまい方法見つけた方が友達、サークル、子ども会、PTA などの中で、こういう方法があるよと紹介できるといいと思っています。

町長（森進）　18 日に北地域の懇談会を実施しましたが、その時にも生ごみの水分を減らす方法があるかという話も出たが、その場では具体的な方法は出なかった。確かに水分量が多いのは現実ですので、家庭から出る生ごみの水分を少しでも減らす方策を、ご家庭で家事をやっていただけている女性の方に、今度は犬塚さんにごみ減量のアイデア・ヒントをいただく中で、どのような取り組みしているかも一緒にお話していただければと思います。

子ども会連絡協議会（犬塚とし枝）　アピタさんには申し訳ないですが、安いからといって、物をたくさん買い過ぎてしまって賞味期限が切れて捨ててしまうということが多いので、企業にとっては売上を上げたいから買っていただきたいとは思うんですけど、子どもも中学生と小学生で、日によって食べる量が違うので、たくさん買い過ぎると捨ててしまうことがあります。買い物をしていると、メモ用紙を持って買い物している人がちらほらみえるので、そういう意識を持って買い物したいと思います。

先ほどの水きりについては、捨てる前に三角コーナーで水を切って、押しながら水分を切ってごみ袋に入れています。

町長（森進）　環境課長さん、具体的に生ごみの水分を減らすアイデア、知恵はありますか。

環境課長（杉本勝広）　生ごみの水きりは一番大きなテーマになります。課長会議などいろんな場で情報交換しますが、回答が見つからないのが現状です。

今やっているのは、水きりネットでの啓発、水を切ってくださいという啓発にとどまっています。

町長（森進）　会場の皆さん、何か具体的なお知恵があれば、挙手をしてご発言いただいても結構です。

＜挙手する者あり＞

傍聴者　プレスと遠心分離機があれば事実上できるんじゃないですか。環境課が何もないでは困る。試してみたらどうですか。

＜他に挙手する者あり＞

町長（森進）　技術的なお話をいただきましたが、あと二人、ボードに記載していただいた方のご意見をお聞きしたいと思いますので、少しお待ちいただきたいと思います。

前田さん。先ほど販売される事業所の取り組みをお聞きしたわけですけれども、そういう点について、さらには生産段階からごみの減量、リサイクル、分別などに取り組めるようなアイデアがあればあわせてお聞きしたいと思います。

サラダボールカンパニー（前田みどり）　私が考えたキーワードは「ズームアウトして見つめろ」です。どういうことかというと、多面的に考えるということです。まず可燃ごみありきで考えないで、先ほど企業さんからお話をいただいたように、生産段階から考えていく必要があると思います。広い視野から、具体的ではないが、そういうふうに考えていて、社会全体で見つめ直して

取り組んでいく問題なので、生産者、販売者、生活者、それぞれがそれぞれの立場になって考えていくことが大事だと考えています。

例えば、簡易包装、量り売り、食材を無駄なく使いきる、必要以上に買わない。無駄なく使いきるというのは、個人レベルは分からない部分があるので、おばあちゃんの知恵ではないですけれども、担当課などで料理講習会なんかも催していただけると、こんなアイデアがあるんだということで勉強になると思います。

販売店とか生産者は社会的責任を再考していただく、生活者は 3R(リユース・リデュース・リサイクル)を日常生活の中で意識して生活していくことが大切だと、今回改めて考えました。

町長（森進）　やはり前田さんが言われたように、それぞれの立場で資源の有効活用、リサイクル、ごみの減量に取り組まなければならないということですが、生産から消費までの循環の中でうまくかみ合っていないというのが現実だと思います。それぞれの立場でそれぞれの人が常に意識して、ごみの減量、リサイクルに今後も取り組んでいく必要があると思いますし、常に意識することも大事だと思います。

最後になりましたが、アピタの萩野下さん。今、消費者としての意見も一部ありましたが、それも含めてアイデア・ヒントをお願いします。

アピタ（萩野下満）　私どもは地域密着で、大口町の中にあるアピタ大口店ですので、先ほどありました牛乳パック、アルミ缶、トレー、ペットボトル、ビン等は、営業時間中はリサイクルボックスを活用していただき、店舗の駐車場外側の商工会側には段ボール、雑誌、衣料品はエコキューブを晴れの日は用意していますので、リサイクルのポイントとしてご利用いただければ、ご家庭にあまりストックすることなくご利用いただけると思います。

それからトレー関係、こういうものについてはコスト高ではあるが、バイオマスで作ったプラスチックを、当店では PB 商品である卵パック、青果の一部で使っています。それから、トレー等も色が付いていてもリサイクルできるトレーへ移行するよう企業として努力しています。さらに、お歳暮やお中元の簡易包装も、皆さんにご協力いただいてやっていきたい。

大口店では 97 パーセントぐらいの方が買い物袋を持ってきます。これは他店と比べて非常に高いことです。大口町の方は意識の高い方がお見えになると認識しています。

今後もご協力できるところは役場の皆様とも協力させていただいて、できることから一つずつやっていきたいと思っています。

町長（森進）　店長のお話ですと、アピタ大口店ではレジ袋の削減が 97%ということで、住民の皆さんのご協力によって高い数値が出ているようです。今後もこの数値を 100%に近づけられるように声掛けをしていただいて、取り組めたらと思います。

生ごみの堆肥化、あるいは生ごみについて町の補助制度があるいう話をしました。それについては、吉田さんから現状の使い勝手、課題もあるという話もいただきました。今日ご出席の傍聴に来ていただいている町民の皆さんで、大口町の生ごみ処理機あるいは堆肥化容器の購入制度を活用して、それぞれの家庭で取り組んでいるという方がお見えになりましたら、挙手をしていただけますか。

(挙手者なし)

町長（森進）　過去も含めて、どうですか。

（数名、挙手）

町長（森進）　余野という地域で空いているスペースが地理的にないという状況もあるのかも分かりませんが、平成3年、平成10年から、堆肥化容器の購入補助、生ごみ処理機の購入補助を実施していますし、伊藤議員からお示しいただいたカレンダーの中にもそのような制度がある旨記載しています。今日こういうことがあったとお話をしていただければ、口コミというのが大事なようですので、お話をいていただければ、少しでも減量につながっていくのではないかと思っています。

環境課長さん、大口町でやっている家庭の生ごみの減量のための状況、あまりにも今日の参加者の中では活用いただけていないようですが、どうですか。

環境課長（杉本勝広）　PR不足を痛切に感じています。行政はPRが下手と認識していますが、これほど下手だったとは…。

ホームページ等でもPRさせていただきながら、ご協力をお願いしたいと思います。

町長（森進）　実績があれば報告してほしい。

環境課長（杉本勝広）　総トータルで、コンポストが504件、処理機が220件の補助を実施しています。

町長（森進）　あまり私が話をしないようにというようなアンケート結果もいただいていますが、生ごみの取り組みについて、河北上郷、二ツ屋、仲沖の3地域の取り組みを少し紹介させていただきます。

河北上郷は、大口町、扶桑町、江南市の1市2町で設置している可燃ごみの焼却施設がある地域です。そこが自主的な取り組みとして、生ごみ堆肥化に取り組んでいます。各家庭から出る生ごみを分別していただくのはもちろん、道の角にポリバケツを置いて、そのバケツに生ごみを入れる。それを回収して、河北エコステーションに搬入して、3台の機械で堆肥化する。堆肥になったものをまた河北の土地へ還元して、その堆肥を使って野菜作りをしています。出来た野菜は、町や地域の催し物に出したり、漬物にして出したりしています。これは、河北エコリサイクルの会が中心で取り組んでいます。

先日もエコリサイクルの会が河北地域で豚汁を振る舞いました。ご案内をいただいて、その場にお邪魔しました。そこに写真が掲示してあり何かと思って聞くと、河北エコリサイクルの会が生ごみ堆肥で作った野菜を被災地へ送ろうということで、町の町民安全課・地域振興課にそんな話があり、直接被災地へ送ることはできませんでしたが、向こうのNPOボランティアとコンタクトが取れて、170キロぐらいの野菜を岩手県遠野市に送られた。その時の写真が貼ってありました。ですから、いろんな取り組みが、大口町の中でも30を超えるまちづくり団体がいろんな分野で活躍していますが、今日のテーマにふさわしい一つの例として、河北上郷で取り組みされているという話を紹介させていただきました。

それで、河北エコステーションは、既に稼働して何年か経つわけですれども、河北を皮切りに、できれば大口町内でこの事業を進めていきたいということでスタートを切ったわけです。その趣旨は、自分たちの出したごみが自分たちの目に見えるところで堆肥化する、そういう形がいいんではないかという提案で進めたわけですが、残念ながら、河北の上郷、二ツ屋、仲沖までしか広がっていないという現状です。私どもは、なんとか大口町内で広がっていくように努力したいと

思っていますし、そうすれば江南丹羽環境管理組合の施設の危機にも寄与できるでしょうし、ごみ減量20%の達成にも寄与できると思っています。ただ、なかなかいろんな状況で進めていくことができないというのが現状です。

いろいろありがとうございました。エコキューブ、常時回収ではさつきケ丘の区長さん、外国人の、大口町でのごみの状況等に理解していただくためにサラダボールあるいは垣田の区長さん、そして、大口町の中でも一番人口が多くなりました余野の地域、集合住宅がたくさん建った中でごみの分別・収集を皆さんに周知・徹底していただいている余野の区長さんには、大変なご苦労をお掛けしています。昼間行ってもお会いすることができない家庭が多いわけですが、そういう中で、私どもの事業にご協力をいただき実施していただいており、お地元の区長さんは大変なご苦労をしていると思っています。

アピタの取り組みについても、レジ袋ばかりではないが、大口町の中でいろんな取り組みをやっていただけている。企業においてそれぞれの取り組みの温度差はあるが、皆さんがそれぞれやっていただける取り組みを今後も続けていって、いろんな形でごみの減量、リサイクル、堆肥化ができたらいいと思っています。

時間が迫ってまいりました。最後に広域でのごみの取り組みについてスライドを見ていただくことになりますが、どうしても今日、皆さんにお願いしておきたいことがあります。それは、リサイクルセンターと剪定枝保管場所のことです。リサイクルセンターは平日350人ぐらい、土曜日は400人ぐらいの人が利用しています。剪定枝保管場所もたくさんの人が使っています。分別に協力していただいて大変ありがたいことだと思っていますが、実は、剪定枝保管場所では、私どもが思っているような利用ではない方が数少ないがいます。剪定枝の例に挙げて言うと、あそこは大口町の町民の皆さんに、家庭から発生する剪定枝・草を持ち込んでいただく保管場所です。どうも、営業のものや、町外のものが持ち込まれているようです。そういう指摘を議会からいただきます。きちっと記帳していただいているが、このような使い方は考えていなかった。純粋に、可燃ごみから分別した剪定枝や草をここで受けますという形でスタートしたにもかかわらず、そういう活用の仕方をされる。私どもの考え方とはまったく違うと思っています。

リサイクルセンターもそうです。72ポイントを3,000円の報奨金で還元する。下小口でモデル的にスタートし、今は全町で73%の方に利用していただいています。行政区で出していただくとスタンプが2ポイント、ですから、1年24回で48ポイントです。残り24ポイント分は、リサイクルセンターは1ポイントですので、月に2回出すと72ポイントになります。したがって、合計すると月に4回、資源ごみを回収する機会があります。

72ポイントを貯める方は、せいぜい1年に1回、多くて2回と思っていたが、びっくりする回数がある。一番多い方は5回です。ちょっと考えにくい。そういうことも議会で指摘があります。まだまだ可燃ごみの中にビンや雑紙が入っているから分別しなければならないという中で、こうした制度で、ある程度成果を上げている一つの手段だと思っているが、私どもはそういう利用・活用を考えているわけではありませんし、そんな活用をしてほしいと思って作った制度ではない。

これは皆さんと私どもが一緒になって取り組まなければならないことなので、私どもの知恵が足りない部分は、十分にお知恵をお借りして取り組んでいくつもりでいるが、使い方、利用の仕方については、利用する側もご理解いただく必もあるんじゃないかと思っています。

何か機会があったら一度お話ししたいと思っていまして、先週の18日(土)、そして今日、明日は南地域の懇談会がありますが、その時も話をさせてもらおうと思っています。

最後に、広域でのごみの対応、現状どのようになっているかを見ていただき、今日の締めとさせていただきたいと思います。

もうしばらくお付き合いをいただきたいと思います。

＜環境課長、スライド「可燃ごみ焼却処理場の現状」に基づき説明＞

町長（森進）　広域でのごみ焼却処理施設についてご説明申し上げました。ちょっと機械の調子が悪く申し訳ありませんでした。

一つ付け加えておきますが、平成30年に新しい施設でごみ焼却が稼働するというスケジュールになっていますが、非常に遅れているという状況です。ご承知のように、22年5月25日に候補地が決定して、9月12日に池野地域へ事業の概要説明にお邪魔したんですが、　それ以降、地元と私ども行政、関係する2市2町と話をする機会はありませんでした。2市2町の意思統一ができなくて、やっと今月、なんとか地域で意見交換をする機会を受け入れでいただける状況になってきました。平成30年の目標に沿う形で、今後の事業を進めていくように2市2町で協力して取り組んでいきたいと思っています。平成30年に供用開始できれば河北の焼却施設はなくなりますが、あそこの施設の一角の最終処分場は焼却施設とは別問題で、今後どうするかは江南市、大口町、扶桑町で話を進めていかなければならない。ですから、新しい施設ができたからといって広域での施設がなくなってしまうということではなくて、最終処分場は残っていきます。それをどうするとかということも今後の協議の課題ですので、皆様にもご承知置きいただければと思います。

1時間半という時間になりました。パネリストの皆さんにもっとお話をしていただくことが必要だったとか思いますが、私の取り回しが不十分で申し訳でありません。

今日ご出席いただいた皆さん、本当にありがとうございます。少しでも大口町のごみの状況・現状等をご理解していただければと思います。ここで皆さんからいただいたご意見は、今後の大口町のごみ行政に参考にしたいと思っています。

いずれにしても、行政だけではごみ問題は解決できることできません。一人一人の町民の皆さん協力、事業所の皆さんの協力があってごみ問題は取り組めると思っています。今後とも皆さんのご協力をお願いして、結びとさせていただきます。

長時間ありがとうございました。

地域振興課長(平岡寿弘)　パネリストの皆さん、どうも大変ありがとうございました。最後になりますが、ごみ減量の取り組みや地域懇談会のあり方について、傍聴者の皆さんのご意見がお伺いできればと思っています。アンケート用紙を用意させていただいておりますので、協力をお願いいたします。

これをもちまして、本日の地域懇談会を終了させていただきます。

ありがとうございました。